

デジタルツールを活用した自治会町内会の情報発信交流勉強会 記録

概要

日時：2024年3月17日（日）9:30～12:30

場所：神奈川区役所（5階大会議室） 参加者：34名

ファシリテーター：原島 隆行 氏

（NPO 法人まち×学生プロジェクト plus 常務理事）

プチ講座講師：頼 栄明 氏（株式会社 LOCAL JAPAN 代表取締役）

事例紹介講師：高須 保 氏（神大寺北町自治会 会長）

菊地 眞行 氏（神大寺北町自治会 副会長）

山崎 栄 氏（反町第一町内会 会長）



プログラム

9:30～ □あいさつ・講師紹介

9:35～ □アイスブレイク

9:45～ □プチ講座

10:15～ □事例紹介（HP：神大寺北町自治会）

10:35～ □事例紹介（公式LINE：反町第一町内会）

11:00～ □交流会（すごろくワーク）

12:20～ □ふりかえり・事務連絡・アンケート記入



□アイスブレイク（原島隆行氏）

- ・体ほぐし：簡単な動きで体の緊張をほぐす。
- ・知らない人と1分トーク（自己紹介）：初対面の人と簡単な自己紹介を行い、口の緊張をほぐす。

□プチ講座（頼栄明氏） デジタルツール活用の一歩を踏み出すことが目的。まずは、できることから始めてみましょう。

<自治会町内会のホームページ活用について>

HPの特徴、良い点、注意点、情報を見に来てもらう「プル型発信モデル」である事を説明。実際に活用している自治会HPを、自分たちが活用する場合をイメージしながら参加者みんなで閲覧。

<自治会町内会の公式LINE活用について>

公式LINEの特徴、良い点、注意点、情報を届ける「プッシュ型発信モデル」である事を説明。架空の自治会を想定した公式LINEを用意し、参加者が発信側と受信側の両面を体験するプログラムを実施。実際に公式LINEを運用するイメージを持つ事ができた。

<情報発信の注意点>

- ・発信する時は著作権・肖像権に注意。（写真使用の場合は、写る人に使用許可の声掛けをしましょう）
- ・発信する前にもう一度内容確認しましょう。（複数人で確認する、責任を一人に押し付けない）

<ここだけは押さえないポイント>

- ・どのデジタルツールが向いているのか考えてみよう。（自目的にあったデジタルツールを選びましょう）
- ・特定の人に負担が偏らないように。（デジタルが苦手な人でも協力できる事があります）
- ・デジタル化の一歩が新たな担い手につながる。（これまで情報が届かなかった人へ情報が届くきっかけになる）



□事例紹介（HP：神大寺北町自治会、公式LINE：反町第一町内会）

インタビュー内容&回答

1. HP 導入のきっかけを教えてください

神：効率的で時代のニーズに合った広報活動の必要性を感じ、HP の導入を考えた。

反：HP は見に来てもらうツールなので、もっと気軽に見てもらえる方法はないかと考え開設した。

2. 導入への不安はありましたか

神：継続できるかどうかが一番の不安。これは今も変わらない。

反：登録者が増えるかどうか不安だった。QR コードを様々なところに掲載し登録者を増やした。

3. 導入した事で実感している反響・効果について教えてください

神：自治会に加入されていない方や他の自治会の方も、北町自治会に関心を持ってくれるようになった。

反：コロナ禍で会合ができない状況下において様々な情報を発信する事ができた。今必要な情報をタイムリーに情報を発信し、町会員からも「これは助かる」と反響の声を聞く機会が増えていった。

4. 運用で気をつけている事、大切にしている事を教えてください

神：自治会の全体像を網羅的・体系的に整理している。写真を使用する際の肖像権に気をつけている。

反：電子機器に不慣れな人や、LINE を使いたくないという人もいるので、回覧板と併用している。

5. 導入費用や運用費用について教えてください

神：立ち上げから2年間は無料。現在は、情報量が増えてきたので月額1200円。

反：公式ラインは月額5500円の有料プランを利用している。

□交流会（すごろくワーク）

7グループ（5～6名/グループ）に分かれてすごろく開始。

<止まった（話した）マス目>

1 投目：出身地自慢 2 投目：個人で利用する SNS は？

3 投目：今日の参加動機 4 投目：デジタルツール活用への不安

5 投目：まちのデジタル化あなたの一歩は

すごろくワーク終了後に完成したすごろくシートには参加者の想いが書き留められた。



<アンケート抜粋>

Q. 交流勉強会に参加されての感想や気づきなどがあれば自由にご記入ください。

- ・すでにデジタル導入を実施しているところが多く驚いた。できることから無理せずやっていきたい。
- ・情報発信側の議論だけでなく受け手側を巻き込んだ勉強会をぜひやって欲しい。
- ・まずやれることから始めたい。とても勉強になった。またこのような企画があると良い。
- ・役員の意識も変えていきたい。参加者と交流会をしたい。
- ・参加者の年齢も若く前向きに感じた。自治会公式LINEを立ち上げたい。
- ・各自治会で課題は多いができることから挑戦したいと思います。

